

令和3年度第1回岐阜県地方独立行政法人評価委員会（県立病院関係）

－ 議 事 要 旨 －

1 日 時 令和3年7月9日（金） 14：35 ～ 16：20

2 場 所 Web会議（Zoom）

3 出席者

[委 員] 中島委員長、地守委員、富田委員、渡部委員、

[専門委員] 伊在井専門委員、田中専門委員

[法 人]（地方独立行政法人岐阜県総合医療センター） 滝谷理事長兼院長、
水野副理事長兼副院長兼事務局長ほか
（地方独立行政法人岐阜県立多治見病院） 近藤理事長兼院長、
後藤副理事長兼副院長兼事務局長ほか
（地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院） 山森理事長、大平副理事長兼院長
岩佐理事兼事務局長ほか

[設立団体]（岐阜県） 堀健康福祉部長、伊藤医療整備課長、長屋課長補佐兼医療企画係長ほか

4 議事等

[議題1] 令和2年度業務実績に関する評価について

[報告] 令和3年度年度計画について

5 配布資料 次第、名簿、資料①-1～①-4、報告（総）（多）（下）、説明（病院）

6 議事要旨

議事概要 県立病院関係

[審議事項：議題1]

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター・岐阜県立多治見病院・岐阜県立下呂温泉病院の令和2年度業務実績に関する評価について

※各病院の理事長から、資料①-1についてポイントを説明。主な質疑は以下のとおり。

県総合医療センター

【富田委員】

救急の外部コンサルについて、CTの件数が多いが、問題点や課題はあるか。(P10)

【滝谷理事長】

ハワイ在住の放射線科の日本人によるものであり、精度が高く正確性もあり満足している。

【富田委員】

周産期について、母体搬送や救急搬送について長良医療センターから集約されたが、問題点はあるか。(P28)

【滝谷理事長】

長良医療センターから産科医が集約され件数が増えたが、去年はCOVID-19により減少。そもそもの件数が減少しているが、NICUは満床が続き3床増床した。各病院の連携が今後必要になる。

【中島委員長】

柔軟に職員の採用を実施したとあるが、定年職員の再雇用以外に何かあるか。(P4)

【滝谷理事長】

定数には縛られず、必要であれば増やす。医療需要に対応できるように独法化はメリットがあった。高齢者が増えていくため介護福祉士、小児医療のため保育士の採用も今後考えている。

【中島委員長】

コロナ禍により、通訳が十分に確保できないと思われるが、下呂温泉病院が実施しているタブレットを活用した取り組みはあるか。(P22)

【水野事務局長】

数台のタブレットを当院も導入している。電話通訳サービスについては、制約により件数が減少している。今後は現場の声を吸い上げ、タブレット台数を増やし、通訳専門員の負担軽減も含め、通訳体制の強化を図っていく。

【富田委員】

インシデント件数が多く、死亡件数もあると思うが、公表基準等はあるか。(P 18)

【滝谷理事長】

重大なものについては、個別の公表をしている。それ以外については、HPに事例の報告と対策を年に数件公表している。

【渡部委員】

新人事給与システムの稼働について、稼働してみて現状でなにか課題はあるのか。また、何を解決する目的でこのシステムを導入したのか。(P 48)

【水野事務局長】

3病院共同で開発し、4月から稼働している。内容について具体的な検証はまだできていないため、今後検証予定。

【渡部委員】

日本高速道路保有・債務返済機構の債券について、償還期限は。購入価額は。(P 54)

【滝谷理事長】

償還期限は20年。購入価額＝額面価額であり60億円で購入している。

【富田委員】

コロナ関係の補助金は、医業収支に含まれているのか。(P 56)

【滝谷理事長】

医業収支に含めている。

【富田委員】

内部監査は、誰が監査をしているのか。(P 64)

【水野事務局長】

経営企画課が監査を実施している。

【富田委員】

医療経営士がいたと思うが。

【水野事務局長】

経営企画課長が会計を専門としているため、中心として監査を実施。

【富田委員】

薬剤師や看護師の県の施設との交流はあるか。(P 6 3)

【滝谷理事長】

県立衛生専門学校への派遣は継続的に実施。他の交流はないが、現場から声が挙げれば検討したい。

【中島委員長】

プロパー職員の資格取得の支援は。(P 5 1)

【水野事務局長】

研修への派遣費用や試験費用を支援している。

県立多治見病院

【富田委員】

コロナ関係の補助金は医業収支に含まれているのか。(P 6)

【近藤理事長】

経常収支に含めている。

【富田委員】

人件費、職員給与費が高いのは、新中央診療棟を見込んでの採用によるものか。

【近藤理事長】

積極的な採用を控えたため、それほど増えていないはず。

【富田委員】

QRコードによる呼出しは、病院が準備したものか、個人のものか。(P 1 2)

【近藤理事長】

個人端末により院内のQRコードを読み込んでもらう。

【中島委員長】

多治見シャトルがコロナ禍でも減少していないため素晴らしい試み。(P 1 5)

【近藤理事長】

最近では、春日井市民病院が導入。他の医療機関でも導入可能。

【伊在井専門委員】

地域の介護福祉施設との連携はあるか。合同カンファレンスは共同指導の点数か。(P 1 6)

【近藤理事長】

共同指導のカンファレンスも実施している。介護施設との定期的なものも実施。

【伊在井専門委員】

退院時の支援ルールはあるか。

【近藤理事長】

入院時から評価をしており、入院からどう退院していくのか家族と話し合っている。

【伊在井専門委員】

退院後施設や在宅に帰る人の入院時と退院時の状況の違いを評価できるものはあるか。

【近藤理事長】

退院時の看護師のサマリーとしている。

【中島委員長】

医学生の来訪が減っているが、研修医等は確保できているのはなぜか。(P 2 4)

【近藤理事長】

当院で研修をすると決めている学生が多く、今年も昨年と数はあまり変わっていない。

【地守委員】

ワクチン接種に係る特別休暇は何日か。(P 4 3)

【近藤理事長】

本人が望む2、3日を特別休暇とする。

【中島委員長】

コンプライアンス研修は新規採用以外にはどの程度の頻度で実施しているのか。(P 3 3)

【近藤理事長】

新規採用者のみに実施している。入職した職員にも実施していく予定。

【富田委員】

令和2年度には、どのくらいコロナ患者を受入れたのか。

【山森理事長】

40人程度の患者を受入れた。

【富田委員】

患者を受けた支援より空床補償が大きかったということか。

【山森理事長】

病床確保のフェーズや受入状況によって変動したが、空床補償の方が収益としては大きかった。

【富田委員】

下呂地方のコロナ患者の波はどうだったか。

【山森理事長】

遠方から帰省された方の感染はあったが、その周りの方々の感染はあまりなかった。自粛されたり、医療機関へ進んで受診されたりした。

【富田委員】

月によってコロナ患者の変動があったが下呂ではどうだったか。

【山森理事長】

下呂でも同様である。下呂では患者が健康に留意しているためか、受診が少なくなっている。死亡診断書やドクターヘリの件数が減っている。人口について、自然減が続いていたが、最近は自然増になってきている。

【中島委員長】

人間ドックや検診が増えているが何か実施しているのか。

【山森理事長】

ポストコロナを考えた際に、下呂市と提携し特定健診等に協力している。

【中島委員長】

医学生の受入れが0人のため、受入れを実施いただきたい。

【山森理事長】

近隣に学生の受入れに注力する医療機関があり、重複するため、遠慮している。

以上（終了時刻 16:20）